

登録日時	(事務局記入)	登録番号	(事務局記入)
行動 チーム名	雨水・土・みどりの再生チーム [英語表記: Reproduction team of the global environment]		
行動主体	<p>「環境への負荷を最小限に抑えた循環型社会基盤の再生」</p> <p>技術顧問: 中央大学 理工学部 都市環境学科 教授 山田正</p> <p>民間企業: (株)オハバ東京支店、コスモ石油販売(株)コスモアスファルトカンパニー、横浜ゴム MB ジャパン(株) 旭化成シタック(株)、(株)岡部、ヘルシースポーツ建設(株)、(株)ビックババ、(株)日本リサイクル、(株)シーコンサルタント【調整中】</p> <p>代表者: 株式会社オオバ東京支店 東京都目黒区青葉台 4-4-12-101 号 環境部 部長 長 尚文 TEL03-3460-0117 FAX03-3468-6526 e-mail: nao_cho@k-ohba.co.jp</p> <p>事務局: 株式会社シーコンサルタント 福岡県八女郡広川町大字水原 1434-5 開発部 野田 実 TEL0943-32-5505 FAX0943-32-1299 e-mail: kaihatsu@cimaconsult.co.jp</p>		
行動内容	<p>コンクリート、アスファルト、鉄による社会基盤造りを推し進めてきた結果、社会環境が悲鳴を上げだしました。都市部におけるヒートアイランド・猛暑日の増加、地方においても集中豪雨で河川が氾濫して発生する浸水災害、山間部における土砂災害等これらのほとんどが、開発による自然破壊の結果、もたらされたものである。</p> <p>21世紀は、自然素材である雨水・土・みどりの再生循環技術を駆使した社会基盤造り、既存社会基盤の改修を推進していくことで次世代へ引き継ぐ負の遺産を減らし、後世の人々に感謝されるものを遺していくことを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒートアイランド対策: アスファルト、コンクリートを保水力のある土に変へ表層にはグリーンカバーを施し、土には水を含ませ、打ち水効果を発揮させることで温度上昇を抑える。</li> <li>・河川氾濫対策: グラウンド、広場を掘り下げ、総合治水機能を持った多目的防災公園に再生し、そこに豪雨時の雨水を一時的に貯水することで、河川流量のピークカットを行い河川流出抑制を計る、またグラウンド、広場の地下に貯水機能を持たせることで、貯まった雨水を再利用することが可能となる。</li> <li>・土砂災害対策: 高台を開発して住宅を計画するときは、法面等の緑化を行い、雨水地下浸透技術を駆使し、下流域への雨水流出を抑制する。</li> </ul>		
課題分析	<p>①学校をはじめとする公共建築物の耐震化は進んできているものの、グラウンド改修は耐震化に比べ遅れているのが現状である。</p> <p>②関東地区の役所へ雨水・土・みどりの再生循環技術のPR不足。</p>		
留意事項	<p>・雨水・土・みどりの再生チームで取り組む課題に関しては、今までに無かった新技術を積極的に取り入れ、活動して行く。</p>		

注) 記述内容は様式1枚に納めてください。参考資料(図、写真等)は添付(複数枚可)してください。